母親編　今号は子育て体験懇話会父親編（昨年 12 月開催）と母親編（今年 2 月開催）でのお話を再構成しました。　父親編

子育て体験懇話会
発達障害のある子を持つ父親・母親の体験から学ぶ

子どもをほめたいと思ってもほめられない…

Aさん　大学生（AD/HD 注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害の診断を受けている）の男性のお母さん

　幼稚園で他の子どもと比べてはハサミが使えない、着替えが遅いと息子を叱ってばかり。
　周りの無理解で息子が一番苦しかったのに、小学校、中学校でも、できないことを強いていました…。

Q　どういうきっかけで息子さんのことを理解できるようになったのでしょうか

　息子の行動がどうしてそうなるのかを勉強しました。理解できるようになるにつれて私自身も気持ちに余裕をもって子どもを見られるようになってきました。そして自分の育った環境の中にも、息子を理解できなかった要因があることに気づき、親も変わらなくてはと思えるようになりました。

　今、息子は大学生。高校退学後に入ったフリースクールで「自分たちができることはサポートします。」という先生達に出会いました。理解してもらえたことで、自分本来の能力を発揮できるようになりました。そして自信を持って行動するようになりました。

情報のない時代、学校で理解してもらえるためには…

Bさん　大学卒業後、職業訓練校に通う長男（AD/HD注意欠陥多動性障害と診断され、その後広汎性発達障害と診断が変わる）と大学生の次男のお二人の男性のお母さん

　長男は小さい時から落ち着きがなく、「親の躾」が問われ、誤解を解くのに苦労しました。小・中学校の先生に病院に行って頂き、主治医と面談をして頂きましたが、理解は得られず、どうしたらいいか悩みました。

　小学校の担任の先生に「AD/HDは知っていますが、AD/HDと診断された児童を目の前にするのは初めてです。」と言われました。
　まず始めに、先生にAD/HDのことを理解して頂けるように、私も先生と一緒に勉強して、常に情報交換をしました。昨年3月に大学を卒業して、現在は職業訓練校に通所しています。親は後方支援に回り長男とはよく会話をしています。

　長男の育児が大変で、長男優先になってしまったことなど、いろいろな理由で、次男が小学校で不登校になってしまいました。中学校入学時には事前に次男のことを説明に行ったことで、先生方の理解が得られ、先生や友だちに支えられながら、不登校を克服することができました。

線が交わるのが嫌だったんだね！！

Cさん　中学生（広汎性発達障害）の男の子のお父さん

　保育園のとき、ひらがなに興味を示さないし、書くのを嫌がる。「なんでかな？どうしてだろう？」と思っていたのですが…。

Q　お父さんがその謎を発見したんですね？

　見ていて、もしかしたらひらがなの線の交わるのが嫌なのかもしれないと思いました。交差があっても迷路だったら大好きなのでそれをやっているうちに鉛筆にも慣れて、まず線の交わらない「し」「へ」が書けるようになり、交わりに慣れてだんだんにたくさん交差がある「あ」まで書けるようになりました。

いい先生にも恵まれましたね。和太鼓にチャレンジも。

　小学校では和太鼓の大会に皆で毎年でていました。うちの子は皆と合わせることが苦手なんですが、和太鼓は音の振動が身体に響くから、その振動で叩くタイミングがわかる。そして、タイミングがあってくると周りの子の様子にも気持ちが向くようになり、「この子の次に自分が叩く」ということもわかってきて、皆で合わせて叩けるようになりました。そんな取り組みを情熱的にしてくれる先生のおかげで学校生活も明るく過ごせました。

同じ障害の子をもつ「おやじの会」に思い切って参加

Dさん　中学生（アスペルガー症候群）の男の子のお父さん

　子どものことについて、言葉が遅いこともあり、妻はいろいろな面でとても気にしていて、勉強もしていました。でも気にはなっても私は仕事が忙しくてなんにもできない。妻には「私ばっかり」「あなたはわかってない」と言われ、妻も相談する人もなくストレスがたまってしまい…。

Q　お母さんも大変でしたね…。でもお父さんも大変だった？

　私は、同じ障害を持つ子の父親の集まり「おやじの会」のことは知ってはいたもののなかなか参加できませんでした。でも思い切って参加して、「そんなのうちもだよ」という仲間と出会うことで気持ちが安定しました。そして余裕ができてきたことで妻の大変さにも気持ちがいくようになりました。最近では学校の保護者会は私が行くようにしています。妻も「今まで何もしなかったけどちょっとは気にしてくれるようになったかな」と思ってくれているようです。妻も通級の父母会などで同じ立場の人と話すことでストレスを解消したようです。

Q　とはいってもやはり仕事も大事です。職場の理解はどうですか？

　仕事を一緒にする上司や同僚に、自分の状況について「大変そうだね」くらいの理解はしてもらえるよう話をしています。こちらから話をしていくことが大事ではないでしょうか。

この子等から育てられること

　両親の発達障害のある子に行う子育てのご苦労を知れば知るほど、「発達障害とは」という解説書では見えないその親子関係の奥深さを感じさせられます。私がこの50年間関わり続けた自閉症の本人のみならず両親の関わりの気持ちは目を見張る思いがしました。この子育てで出来る親の知見は、支援者としても学びの素になることが沢山あるのです。『この子育てあっての親育ち』と言いたいような養育歴を知ったことで、私も育てられました。

（父親編司会者　社会福祉法人嬉泉　常務理事　石井哲夫）